

専門委員会開催報告

会合名	第8回「原子炉における機構論的限界熱流束評価技術」研究専門委員会
会議種別	本会議
開催日時	2022年4月4日(水)13:30~17:00
開催場所	Webex
参加人数	19名 大川主査(電通大)、森幹事(九大)、坂下委員(北大)、伊藤委員(京大)、上遠野委員(日立)、古市委員(日立)、高野委員(三菱)、淀委員(三菱)、古谷委員(早稲田大)、新井委員(電中研)、牧野委員(NDC)、小林委員(GNF-J)、小宮山委員(MNF)、笹川委員(NFI)、小瀬委員(YSE)、上澤委員(JAEA)、小泉委員(電通大)、吉田幹事(JAEA)、小野幹事(JAEA) オブザーバーとして池田氏(日立)
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第7回議事録確認を行った。主査、幹事、委員の確認・承認を得た。 2. 委員名簿の更新部分の確認を行い、変更がある場合はメール等で幹事まで連絡を依頼した。 3. PWRにおけるまとめ表の穴埋めの議論をについて、数が多いため、いくつかピックアップして例として議論をすすめた。各委員において専門分野についていくつか確認をしてスコアを記載した。 4. 全員で採点して平均点をとるのではなく、合議制として、意見を聴取しながら進めることとした。それぞれの専門家に担当割をしてそれぞれ原案を作ってもらい、委員会として承認することとした。 5. それぞれの項目について、担当を割り振り、現在のまとめ表の記載を確認してもらったうえで、スコア付けしていただくこととした。評価軸やスコアの考え方が適切かどうかについても、担当者間で吟味することとした。次の委員会にて、委員間で審議した原案について出されて、審議する形になる。 6. 企画セッション(2022秋)の予稿提出を鑑み、今後のスケジュールの確認を行い、次回(9回)においてPWRの原案の承認、BWRの議論を行うこととした。 7. NTHAS12における企画セッションの実施について内容、構成、担当について議論を行った。4~5件の発表で、オーガナイズドセッションの形にすることとし、発表担当者を決定した。 8. 最終報告書のもくじ案に従い、担当割を行った。 9. 次回の委員会は、令和4年6月1日(水)PM(13:30~17:30)開催で合意した。 <p style="text-align: right;">以上</p>
備考	

2022 年 2 月 24 日

専門委員会開催報告

会合名	2021 年度第 3 回「原子炉における機構論的限界熱流束評価技術」研究専門委員会幹事会
会議種別	幹事会
開催日時	2022 年 2 月 24 日(木)10:00~11:00
開催場所	Webex
参加人数	3 名 大川主査(電通大)、吉田幹事(JAEA)、小野幹事(JAEA)
議事	<p>第 8 回会合は、当初は対面での議論を予定していたが、Webex での開催となることを受け、煩雑な議論をどのように進めていけばよいか議論を行った。膨大な大きさになったエクセルベースのまとめ表を分解して、パワーポイントに整理してまとめ、表の部分・部分についてひとつずつピックアップして議論できるような形の資料を作成することとした。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
備考	

専門委員会開催報告

会合名	第7回「原子炉における機構論的限界熱流束評価技術」研究専門委員会
会議種別	本会議
開催日時	2021年12月1日(水)9:30~11:30
開催場所	Webex
参加人数	20名 大川主査(電通大)、森幹事(九大)、坂下委員(北大)、伊藤委員(京都大学)、上遠野委員(日立)、古市委員(日立)、塚田委員(東芝)、高野委員(三菱)、淀委員(三菱)、古谷委員(早稲田大)、新井委員(電中研)、牧野委員(NDC)、小林委員(GNF-J)、小宮山委員(MNF)、笹川委員(NFI)、小瀬委員(YSE)、上澤委員(JAEA)、小泉委員(電通大)、吉田幹事(JAEA)、小野幹事(JAEA) オブザーバーとして池田氏(日立)
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第6回議事録について、確認・承認を得た。 2. 事務連絡の確認において、幹事より1年延長になったため、委嘱状についてのデータを返送いただくよう委員各位へ依頼した。 3. 委員名簿の更新部分の確認を行い、変更がある場合はメール等で幹事まで連絡を依頼した。 4. 幹事より、本日の進め方の方針について、以下の点について議論を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ表のフォーマットの完成をする ・6回委員会を受けての反映点の確認について ・メール審議での指摘と対応についての確認について ・組み合わせる解析技術について(メールで受けたコメントに対する議論) 7. 今後のスケジュール確認を行い、第8回委員会で最終報告書の執筆分担を決定することとした。 8. 次回の委員会は、令和4年4月4日(月)PM(13:30~17:30)開催で合意した。 <p style="text-align: right;">以上</p>
備考	

2021年11月19日

専門委員会開催報告

会合名	「原子炉における機構論的限界熱流束評価技術」研究専門委員会
会議種別	メール審議
開催日時	2021年11月11日(木)-19日(金)
開催場所	e-mail
参加人数	22名 大川主査(電通大)、森幹事(九州大)、坂下委員(北大)、伊藤委員(京都大学)、劉委員(九州大)、上遠野委員(日立)、成島委員(日立)、古市委員(日立)、塚田委員(東芝)、高野委員(三菱)、淀委員(三菱)、古谷委員(早稲田大)、新井委員(電中研)、笹川委員(NFI)、牧野委員(NDC)、小林委員(GNF-J)、小宮山委員(MNF)、小瀬委員(YSE)、上澤委員(JAEA)、小泉委員(電通大)、吉田幹事(JAEA)、小野幹事(JAEA)
議事	<p>1. 解析手法と限界熱流束判定モデルを組み合わせたまとめ表を用いて、委員が各自持ちうる課題意識や知見を絞り出していく、ブレインストーミングの道具にするというところを目的とし、委員の主観に基づき、それぞれの解析手法や限界熱流束モデルの課題出しや評価を依頼した。メールでの議論の結果(まとめ表の構成に関するコメントや、実際にまとめ表への記載されたもの)は、今後の委員会でのまとめ表のたたき台とする。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
備考	

2021 年 10 月 20 日

専門委員会開催報告

会合名	2021 年度第 2 回「原子炉における機構論的限界熱流束評価技術」研究専門委員会幹事会
会議種別	幹事会
開催日時	2021 年 10 月 20 日(水)10:00~11:30
開催場所	Webex
参加人数	4 名 大川主査(電通大)、森幹事(九大)、吉田幹事(JAEA)、小野幹事(JAEA)
議事	1. 第 6 回会合において紹介したとりまとめ表の案(評価手法の組合せによる重要・課題事項等の抽出方法)について、委員会内でのコメントを受けて修正案を検討した。 <p style="text-align: right;">以上</p>
備考	

専門委員会開催報告

会合名	第6回「原子炉における機構論的限界熱流束評価技術」研究専門委員会
会議種別	本会議
開催日時	2021年8月27日(金)13:30～15:30
開催場所	Webex
参加人数	20名 大川主査(電通大)、坂下委員(北大)、伊藤委員(京都大学)、劉委員(九州大)、上遠野委員(日立)、古市委員(日立)、成島委員(日立)、塚田委員(東芝)、高野委員(三菱)、古谷委員(早稲田大)、新井委員(電中研)、牧野委員(NDC)、小林委員(GNF-J)、小宮山委員(MNF)、小瀬委員(YSE)、上澤委員(JAEA)、小泉委員(電通大)、吉田幹事(JAEA)、小野幹事(JAEA) オブザーバーとして池田氏(日立)
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第5回議事録確認を行った。主査、幹事、委員の確認・承認を得た。 2. 事務連絡の確認において、幹事より1年延長の手続きを行っている旨、連絡があった。 3. 委員名簿の更新部分の確認を行い、変更がある場合はメール等で幹事まで連絡を依頼した。 4. 幹事より、今後の進め方について説明があった。 5. 幹事より、まとめ方の一案について紹介があった。限界熱流束評価にあたり、想定しうる解析手法および限界熱流束のトリガモデルを組み合わせ、開発要素や実機適用性に関して様々な評価軸を設定し、それに従い、各手法の組合せについて課題出しするとともにスコア付けをするという案であった。各委員より、以上で提案したまとめ表の記載事項の確認を行い、意見を聴取した。意見を反映したものを、表の改訂版は9月半ばに1回委員へ配布し、9月中にはコメント等を書き込み返送いただき、その後幹事間で評価項目等を精査することとした。10月中旬から仮点数付けをしてもらい12月の委員会で議論を行い最終的に決定し、その後正式に点数付けを行うこととした。 7. 学会誌への執筆と投稿について報告があった。 8. 次回の委員会は、12月1日(水)AM(9:30～12:00)開催で合意した。 <p style="text-align: right;">以上</p>
備考	

2021年8月20日

専門委員会開催報告

会合名	2021年度第1回「原子炉における機構論的限界熱流束評価技術」研究専門委員会幹事会
会議種別	幹事会
開催日時	2021年8月20日(水)10:00~11:30
開催場所	Webex
参加人数	4名 大川主査(電通大)、森幹事(九大)、吉田幹事(JAEA)、小野幹事(JAEA)
議事	<ol style="list-style-type: none">1. 研究レビューを一通り終え、原子炉における機構論的限界熱流束評価技術における最終とりまとめの具体的な形を検討した。2. 検討結果として、限界熱流束評価に使われる解析コードや限界熱流束判定モデルについてそれぞれのもつ課題を出して、表にまとめることとした。具体的な形式等については、幹事持ち帰りで具体案を検討し、第6回委員会で叩き台を紹介することとした。 <p style="text-align: right;">以上</p>
備考	

専門委員会開催報告

会合名	第5回「原子炉における機構論的限界熱流束評価技術」研究専門委員会
会議種別	本会議
開催日時	2021年5月19日(水)13:30～16:30
開催場所	Webex
参加人数	20名 大川主査(電通大)、森幹事(九州大)、坂下委員(北大)、伊藤委員(京都大学)、劉委員(九州大)、上遠野委員(日立)、成島委員(日立)、塚田委員(東芝)、高野委員(三菱)、古谷委員(早稲田大)、新井委員(電中研)、牧野委員(NDC)、小林委員(GNF-J)、小宮山委員(MNF)、小瀬委員(YSE)、上澤委員(JAEA)、小泉委員(電通大)、吉田幹事(JAEA)、小野幹事(JAEA) オブザーバーとして池田氏(日立)
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第3回議事録確認を行った。主査、幹事、委員の確認・承認を得た。 2. 委員から、非定常事象における限界熱流束の評価の重要性、非定常限界熱流束に関する基礎的な研究の紹介(実験やモデル)のあとに、委員が実施している非定常限界熱流束試験を始めとする原子炉の燃料集合体を対象とした研究の紹介があった。紹介の中では、より機構論モデルを指向した汎用的な相関式の開発が望まれていることが述べられ、そのための実験による知見の拡充が課題であることが指摘された。 3. 委員から、プール沸騰の限界熱流束に影響を及ぼすと思われる要因を分析し、各物理量を計測する既存研究についてのレビューが報告された。微細な液膜内の温度や流速の計測はまだ確立されていないことや乾燥面の拡大が限界熱流束のトリガとなっていること、しかしその乾燥機構は明らかにされていないことが述べられた。 4. 2021年春の年会・企画セッションでの発表について、幹事から報告があった。次回は、2022年の秋に企画セッションを予定するが、内容的には活動の総括も含まれるとの説明があった。 5. 原子力学会での特集記事執筆について、幹事より、執筆の背景、構成内容、執筆担当者について説明があった。候補で挙げた執筆者において当該記事を作成し、原子力学会誌に投稿することについて、参加委員から賛成を得た。 6. 最終報告書の執筆について幹事より原子力学会誌の原稿をベースに作成するとの提案があった。役割分担については、幹事の方で叩き台を作成して幹事会にて議論し、全委員に対してはメール審議することを決めた。 7. 委員会の期間延長について幹事から、1年延長の必要性について説明があり、委員から異議がなかったことから延長の手続きを行うこととした。 8. 次回委員会でのアクションプランのたたき台については、主査および幹事での会議において議論して叩き台を作ることとした。また、専門的なところは個別に依頼することとした。次回開催は、8月27日(金)午後決定した。 <p style="text-align: right;">以上</p>
備考	

